



羽生の杜

羽生の杜通信

2019年02月号 Vol. 7

巻頭言 今年の羽生の杜は。

NPO法人羽生の杜理事・事務局長 田村信征

今年の活動に新しく加えた課題が2件あります。ひとつは「子ども食堂」の開設。二つ目に「がん哲学外来カフェ」です。

子ども食堂は経済的に困窮する子どもに食事を提供するという目的で始まった活動で今や全国規模で広がってます。貧困は子どもたちの学力の低下やいじめ、虐待、不登校などにつながっていると思われていますがこれらの事象は格差社会の一形態とも言えます。しかし他方でこのような現実は多くの要因からなかなか表に現れにくい事情もあるといえます。そうした状況を踏まえて私どもの「食堂」は子どもたちは言うまでもなく、育児や思春期の子に向き合い思い悩む親御さんや、一人暮らしの高齢者の孤食や外国人家族や障害者など、生きづらさを抱えた方々に対応する「食」の場の提供として位置づけたいと思っています。一緒にご飯を作ってみんなで食べれば旨いし居心地が良い、そうした「食」の居場所を形作っていきたいと考えてます。その意味で「子ども」食堂という名称は必ずしも適当などとは言えず、変更したいと考えてます。これは「みんな」の食堂です。老若男女が集い遊び、学び、食べることを通して快適な「居場所」を創り出すことを目指したいと思えます。

二つ目は「がん哲学外来カフェ」の開催です。今やがん患者は2人に一人の割合で発症していると言われてます。昨年、私自身が当事者になったこともあり「がん」を取り巻く課題は多岐にわたることを痛感しました。患者の身体的なケア（治療）のことだけでなくそのことによる経済的な問題や患者と家族の問題、友人、人間関係など医療だけでは対応しきれない多くの複合的な難問を抱えることに直面します。直面するこれらの難問は患者本人がお一人で解決するよりは共通の悩みを持つ者同士が集まって事柄の共有と解決の糸口を見つける場にはできないのではないかと考えられます。

「がん」というのは仮の病名であって「病」にある人すべてにとっての課題と言えます。初回は3月31日にがん哲学外来カフェを提唱し実践してこられた順天堂大学教授の樋野興夫先生を招いての講演会を企画しました。この講演会で特筆すべきこととして羽生市の介護支援専門委員連絡協議会（ケアマネの会）さんに呼び掛けて共催することになったことです。最も患者さんと身近に接している方々ですので、共催した意義は大きいと思っております。4月以降は月に1回定例化（第4木曜日）シカフェとして継続する予定です。

「よく来たね」と何時でも誰でも迎え入れることができる「場」をつくるのが私どもの目指すNPOです。今年の新しい企画もそのことを実践する試みになりますが、「憐憫」の情に流されるのではなく普通に迎え入れる心構えこそが肝心であると思っています。

戸恒 和夫

(すくすく広場事務局長・加須市)

はじめに

県主催のとある講習会で田村さんと知り合えたのがきっかけで、埼玉県北部で、志を共有できる仲間として、羽生の杜とは、とても親密に交流させていただいております。羽生の杜の恵まれた自然環境にすっかりほれ込んでしまい、すでに3度も会場にお借りし、参加した親子共々大変楽しい時間を過ごさせていただきました。毎回、希望者がどっと増えるのが常で、木立の中でのロープ遊び、虫取り、ザリガニ釣り、プール、ブランコ、ハンモック、流しそうめん、バーベキュー、木の香りのする高い天井の屋内での室内遊び、保育…などには、大人たちも含め大変人気があります。それも、杜を常に大切に護り育ててくださっているスタッフの皆さんのお力と、「自由にフル活用してください」という寛容な姿勢があつてのことで、心より感謝しております。

すくすく広場とは？

一般社団法人すくすく広場は、「あそぶ・まなぶ・たべる」をキャッチフレーズに、地域での子育てを支援すること、あちこちに近所の力で運営する小さな子ども食堂をつくることを目的にして、2016年11月に発足しました。2011年に原発事故で双葉町から加須市に避難を余儀なくされた方々を支援する「ぴえろのあそびひろば」の5年間にわたる活動を引き継ぎつつ、対象を加須市民に広げる形で始まりました。

スタッフも子ども食堂に関心のある市民＝ベテランの子育て経験者を中心に、保育士、幼小中高大の元・現教員、臨床発達心理士、栄養士、社会福祉士らが混じって会員となり、実践の傍らで常に一層の研修を積み、市内での広報にも力を入れ、あるべき姿での行政との共働を心がけながら活動を進めています。

主な活動は、毎月1回の「すくすくのあそびひろば」（あそびと食事）開催と、毎週木曜夕方に開く小中高生勉強会（無料学習支援）ですが、他に毎月運営会議と研修会を兼ねた「すくすくサロン」（会員以外も自由参加）を開き、会員間の相互理解と資質向上を図りながら、年に2回は、市民対象の講演会を開催してきました。

現在正会員38名、賛助会員31名。スタッフは全員無償のボランティアですが、その会費と、市民の方々からの寄付と市からの補助金で運営しています。今年はフードバンクの機能も果たしていることと研究中で、埼玉県内の子ども食堂ネットワークに加盟して情報交換をしています。

この中で、願いが叶い、17年12月には加須市南町に吉田さん夫妻を中心に「つくしの家」という、文字通り「近所の力」で運営する小さな子ども食堂が誕生して、すくすく広場とも密接な関係を保ちながら、毎月第2・第4金曜日に活動を楽しく継続しています。

2年間の実績から見えてきたこと

さて、あそびのひろばや、学習支援、子ども食堂の実践を始める前には、多くの方がそうであるように、「よく言われるような子どもの貧困というのは、本当にあるのだろうか？」「どうやって子どもを集めるのがいいのか？本当に困った子が、来てくれるようになるのだろうか？」「もしケガや、食中毒の事故が起きたらどうするのか？」と言った疑問や不安がありました。これらの疑問は、今も、たくさんの方々に関心を持ちつつも踏み切れないでいる大きな原因になっています。

しかし、「つくしの家」の様子を見ると、「貧しい」とか「困っている」とかの一文字も使わないまま、「必要とする子たち」にもきちんと出会えていることがわかりました。特に驚いたのは、

5・6年ほどのしっかりした子らが、私たちの「思い」を以心伝心、なぜかしらちゃんと汲み取ってくれていて、自然な形で友達を誘ってきてくれることでした。さらに、スタッフも、どこから探したりしてくるとかではなく、ともかく近所の力で…と、腹を据えて続けているだけで、一人また一人と、足りてくることがわかりました。なぜそうなるのかは、どなたかの分析を待つしかありません。でも、兎に角そうなることが確かな事実です。

また、ある姉妹は、両親が共稼ぎで遅くに帰宅するまで、お金だけを多めに預けられて過ごしていて、見かねた近所のおばさん（会員の一人）が、自分の孫娘と一緒に勉強会に通うようにしてくれています。でも、宿題には、大人たちが立ち入ることを拒否し、間違っている、ただ分量をこなせば、あとは「終わったからもういいんだ」と凶々しくふるまうのですから、私たちスタッフも久しぶりに(?)あれこれ知恵を絞り合って悩むのですが、「硬軟あつて良い。なにせどの子ども大切に、支え続けることが一番」と話し合っています。ここには、「十分に手をかけられて来ていない子」のつらさが見えるからです。このようなことも、始めたからこそ実感できることで、「見えなかった」のは「見ないようにしてきたから」にほかならなかったことを感じます。

私たちの活動を聞いた近所のおばさんが、「私だって、向かいの子を時々呼び込んで、おやつをあげたりしているんだよ…」と話してくれました。実はこれこそがすでに「近所の力」で、子ども食堂は、それ以上でも、それ以下でもないのだとわかります。また、今でこそ子ども食堂は「流行り」ですが、長年地域で活動してこられた婦人会の方などに聴くと「そんなの今に始まったことじゃなく、戦後しばらく、私らがしょっちゅうやっていたことだよ」とのこと。こうした先輩方の経験に敬意を払い、素直に学ぶことが必要だと思いました。

大切なのは、昔にあった近所の力を地域に取り戻すことで、子ども食堂はそのきっかけになればよいのだと思います。そういえば、私たちも皆、振り返ってみると、小さい頃や、子育てに忙しかったころ、ご近所や、同級生の家族に助けられてきた思い出を持っていて、それが今、この活動に関わる原動力になっていると語り合うことが多いです。

今、行政との関係をどう作るかが問われている

ところでこのところ、埼玉県では子ども食堂がブームと言って良いくらいになって来ました。それというのも県知事のお声がかかり、「子ども食堂を800に増やす」との動きが始まっているのです。

例えば、県営団地の集会所に調理施設を整備したり、高齢者のデイケア施設をそのまま利用するなどしたりして、選定・委託を受けたNPOが運営し、午後からの時間帯に夕食提供を含む子どもの居場所づくりをする。さらには、学研、ベネッセ、シダックスなどの大企業にも参入してもらおうなどが、そのモデルとされています。これには老人と子どもとの出会いの効果(?)云々も加えられているのです。

また、県内のたくさんの企業が、食品や資金の提供をしやすいように、11月26日には市民たちと企業を出合わせる県主催の大規模なフォーラムが大宮で企画されています。このように、県が予算化し、企業も参入するとなると、一気に「各小学校区に1つずつ」というのが現実味を帯びて来て、子ども食堂ができる速度も、経営効率や危機管理の手法も格段に向上すると期待されているのです。

しかし、一方でこの動きには少なからず疑問が生じてしまいます。

それは、せっかくの手作りの小さな子ども食堂の運動が、大切に、頼りにしている「近所の力」が、かえって損なわれてしまうのではないかという心配です。

「もう出来ているのだから、何もアンタらがやることないんじゃないの?」とか、「心配な子が居たらそっちに行かせればいい。専門家に任せる方がいいに決まっている」とか、「何か問題が起きたらどうするの!」とか、「どうせアンタたちもお金をもらってやっているンでしょ…」とかの冷やかな声が、(例によって?) 充満してしまい、せっかくの「あたたかいごはん」から、肝腎の「手をかけ、こころを通わせる」という暖かさの意味を失わせてしまうのではないか…という心配です。

私たちが子ども食堂にかける思いは、近所のおじいさん、おばあさん、おじちゃん、おばちゃん、若者たち、子どもたち、お互いが子ども食堂をきっかけに知り合って、手を振り、声をかけ合い、時にちょっとずつ支え合える「近所の力」「地域の力」を取り戻すことにこそあるのだと思います。

それには、面倒な部分をさっさと行政や企業に任せてしまっはいけないのです。子育てに面倒さはつきものです。この面倒な部分にこそ、楽しみと励まし、大人も一緒に成長していける種が隠されているのですから。また、「近所の力」は、昔の隣組がつつい権力の手先になって果たしてしまったような力であっては絶対にいけません。行政に頼りすぎ任せすぎではいけないことは、平和な生活を守るためにも欠かせないことなのは、もう常識なのですから。

そうは言っても、「少しの費用の補助」「問題が起きてしまった時」の対応など、後ろから、行政が支えとなって欲しい役割はありつづけます。幸い(?) なことに、羽生や加須、つまり県北の地区では、県の南部に比べて、子ども食堂の数も圧倒的に少なく、市の行政もこうした県の気ぜわしい動きにはまだポカンとしている(?) 状況です。ですから、実は今のうちに、私たちが追求しているような「近所の小さな子ども食堂」を市民の手であちこちに作る運動を広げ、それを後方からゆったりと支えることについて、市の行政と丁寧に話し込んでいくことが、今、いちばん必要なことと考えています。

市民が働き、行政が支える。これこそが、真の意味の市民協働社会なのですから。(完)

※会員、スタッフになってくださる方やボランティアをいつも募集しています。事務局までお気軽にご連絡ください。(090-2411-8598戸恒和夫携帯)

活動の沿革、考え方、予定など、より詳しくは、ホームページをご覧ください。

HPアドレスは、<http://k-sukusuku-hiroba.org/> または羽生の杜HPのリンクをお使いになるか、「すくすく広場 加須」で検索してもご覧いただけます。

すくすく
広場 一般社団法人
すくすく広場



羽生の杜の各種講座・カフェ・イベント

羽生の杜は各種講座やイベントを通して「居場所」作りを目指しています。

おいでよ! 羽生の杜

多くの高齢者は生きてきた実感や誇りを持っておられます。そして多くの方は、体験してきた物語や技能や知識などを、他の方と共有したいと思っておられるのではないのでしょうか。羽生の杜の講座の基本的なコンセプトは「共有」です。みんなで分かち合っ楽しい時間を過ごしましょう! 力を抜いてヒョイと遊びにいらしてください。心よりお待ちしております。

受講料: 1回1,000円 (お茶orコーヒー付)

講座一覧 カレンダー

講座名	曜日・時間	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
ジャズボーカル	第1土曜日 14:00~16:00	—	7日	7日	4日	2日	6日	4日
俳句	第2木曜日 10:00~12:00	9日	13日	13日	10日	8日	12日	10日
連句	第2木曜日 13:00~15:00	9日	13日	13日	10日	8日	12日	10日
吹奏楽	第2土曜日 14:00~15:30	12日	9日	9日	13日	11日	8日	13日
陶芸	第1土曜日 13:00~15:00	—	2日	2日	6日	1日	1日	6日
写真	第4土曜日 13:00~15:00	26日	23日	23日	27日	25日	22日	27日
数独	第3土曜日 13:00~14:30	19日	16日	16日	20日	18日	15日	20日
囲碁カフェ	第2木曜日 13:00~17:00	10日	14日	14日	10日	9日	13日	11日
カラムカフェ	第3土曜日 13:00~16:00	19日	16日	16日	20日	18日	15日	20日

お申し込みは下記に
メール: tamura@hanyunomori.org
☎ 048-538-4585 (田村)
〒348-0043 羽生市桑崎1331-2
NPO法人 羽生の杜 (敷地内に駐車場有)

多方面でご活躍の個性豊かな講師陣と素敵な講座がいっぱいです!

ジャズボーカル 第1土曜日 14:00~16:00
講師: 富樫謙彦さん (1946年生まれ)
吹奏楽 第2土曜日 14:00~15:30
講師: 兼杉義之さん (1946年生まれ)
俳句/連句 第3木曜日 10:00~12:00/13:00~15:00
講師: 鈴木了齋さん (1948年生まれ)
写真 第4土曜日 13:00~15:00
講師: 廣澤章光さん (1944年生まれ)
陶芸 第1土曜日 13:00~15:00
講師: 岡田益五朗さん (1953年生まれ)
数独 第3土曜日 13:00~15:00
講師: 後藤好史さん (1951年生まれ)

囲碁カフェ 毎月第2木曜日の13時~17時開催
カラムカフェ 毎月第3土曜日の13時~16時開催



X'MAS JAZZ CONCERT 羽生の杜

誰もが知っているスタンダードジャズを一緒に楽しみましょう!

'18.12.1(土) 開場: 13時 終了: 15時半
入場料: 1,000円 (ドリンク付)
駐車場: 有り (無料)
主催: NPO法人羽生の杜
協賛: 音楽工房てまり

Vo: 富樫謙彦, Dr: 長谷川真男, P: 大澤祥子, As: 兼杉義之
Bs: 羽生生也, C: 藤田

自然の森でのびのびと
食べる！遊ぶ！学ぶ！

**羽生の杜
こども食堂**

2019年
1月24日(木)
2月28日(木)
3月28日(木)

<時間>
17:00~19:30

<食材費>
こども100円
大人300円

お話を聞いてね！
午後6時半からは、みんなで楽しい
夕飯だよ
食事はボランティアの方々が美味しい
料理を作ってくれます
元教員や元予備校の講師が親切丁寧
に指導します
事前に予約の連絡をお願いします
電話：090-3348-2149 田村
mail: tamura.nobuyuki@ameo.plala.or.jp

「こども食堂」は4月より「みんなの食堂」に名称変更します。この活動を地域の方々でお支えいただきたく思います。食材の提供、食事の支度や学習支援、遊びネタ提供など、ボランティアでのご協力をお願いします。又こども向けの本やおもちゃなどのご提供もいただけると助かります。

羽生の杜(森)を開放

木造の建物と1,500坪の森は、屋内・屋外共に開放的な子どもたちや若者たちの遊びや学びの場に最適です。各種イベントなどにぜひご活用ください。また、屋内での講演会や映画会、コンサートや寄り合いなど、多目的のご利用に対応可能です。7Pの写真は昨年行われた各団体のイベント写真です。



地域のみなさま

羽生の杜

お子様・ご高齢者



一般社団法人すくすく広場「すくすくのあそびひろば」〈2018年4月15日、8月18日〉



NPO法人羽生子育てサポートキャロット「秋祭り」〈2018年4月11日18日〉



埼玉県立加須げんきプラザ「加須げんき野あそびプログラム」〈2018年5月20日〉



ご支援ありがとうございます

寄付・寄贈・協力者、団体名(2017年12月～2019年2週間月現在 日付順 敬称略)

○寄付者

高野光祥、広岡晴夫、菊池秋雄、櫻井淳子、鈴木和子、大川大地、村田充子、移川早苗、千葉宣義、篠崎蒔子、宮山博、高橋敬基、小林聖、岩本慎三郎、真下弥生、板津遥、福島真、赤嶺菊江、阿部玲子、移川早苗、日本基督教団洛陽教会、移川早苗、鹿倉祐造、移川早苗、立石光江、長尾吉彦、松惣本店、羽生市介護専門委員協議会、露木美奈子、鈴木祐子、芝田洋一

○賛助会費

(2017年)櫻井淳子、吉井景子、林裕子、鈴木誠一郎、浅野直人、坂田孝二、千葉宣義、山田真、小林聖(2口)、小西弘泰、小林昭博、(2018年)須郷敏子(2口)、比嘉洋子(2口)、原 宝・直呼(2口)、桐村剛、坂田孝二、櫻井淳子、(2019年)千葉宣義

○正会員費

(2017年)岩本慎三郎、福島真、田村信征、(2018年)田村信征

寄付のお願い

今年の羽生の杜の活動は多岐にわたってきており、それに伴って維持経費も重なっております。それらの出費は寄付と賛助会員費と正会員費で賄っており感謝の一言に尽きます。

羽生の杜はこの建物と広大な森の環境があってこそ多くの方々に喜んでご利用いただいておりますが、他方でこれらの環境の維持には膨大な費用が発生します。これまではお二人のボランティアスタッフが多くの労力と寄付でお働きいただきましたが、昨年秋より遠方に主なる拠点を移されて活動することになりました。今後は地域でボランティアを募って森の維持管理をしていく仕組みを立ち上げていきたいと考えています。と同時に管理する上での機材やその維持のための経費は決して少額ではありません。この恵まれた環境の維持のためにさらに多くの賛助会員費や寄付でのご協力を心よりお願いいたします。

郵便振替口座：00130-0-419749

特定非営利活動法人 羽生の杜

● 賛助会員の年会費

(個人) -□ 年 / 5,000円 (何口でも可)

(法人) -□ 年 / 10,000円 (何口でも可)

【編集後記】

最初に、14か月ぶりの羽生の杜通信になりましたことお詫び申し上げます。2018年7月までは予定通りの活動を行って参りましたがいろいろな事情と私の体調不良が重なり8月から12月まで講座などの活動を休止しておりました。通信以外ではホームページとフェイスブックでの情報発信をしていますが、わがディープな読者(支援者)の多くはペーパーメディアをお気に入りの方々が多くいらっしゃるようで、「羽生の杜」からの音沙汰がないけど「まだ、やっているのかしらん?」とお思いになられた方も少なくないのではないかと案じております。

昨年12月1日(土)にクリスマスジャズコンサートを開催し、このイベントを再開のオープニングと位置付けて再出発いたしました。活動休止とはいっても「おいでよ!羽生の杜」講座メニューや講師の調整、そして新企画の子ども食堂と子どもたちへの学習支援の準備、それと「がん哲学外来カフェ」開催に向けての準備などに多くの時間を費やしてまいりました。さらに、近隣のNPOや団体にここの環境を提供しての施設利用など実質的に活動は継続していた状況にあります。なんといってもこの活動休止期間は多くの地元の方々との出会いや団体への訪問、子ども食堂フォーラムなどへの参加などこれまでに実現できなかった出会いや学びの機会を意欲的にこなしてきました。多くの出会いや学びの機会を通して貴重な経験をさせていただきました。

1月から子ども食堂が動き始めました。第一回は子どもたち9名を含めて33名の方々に大賑わいでした。この類のイベントは万全の準備のつもりでもいろいろ終わってみると足りない点などに気づかされるものです。まして未経験の分野に参入しての手探りで動き始めたので早速たくさんの課題に直面しています。

今号は1年間の活動と当面の活動内容を写真を中心に掲載しました。また、いつもご協力いただいているすすく広場の戸恒さんには早くに原稿をいただいておりますながら発行が大幅に遅延してしまい申し訳ございませんでした。子育て支援や子ども食堂経験の先輩からの適切なアドバイスに感謝申し上げます。

今年から羽生の杜通信の簡易版を出来るだけ頻繁に発行していきたいと考えております。どうぞ今年も私どもの働きにご支援とご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。(田村信征)

特定非営利活動法人 羽生の杜 〒348-0043 羽生市桑崎 1331-2

TEL & FAX: 048-538-4585 Mail: tamura@hanyunomori.org URL: www.hanyunomori.org